

来週の市場とレート予想

	4/27(月)	4/28(火)	4/29(水)	4/30(木)	5/1(金)	5/7(木)	5/8(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%						
銀行券	△ 1,500	△ 3,000		△ 2,000	△ 1,000	+ 5,000	+ 4,000
財政他	△ 9,200	+ 1,000		+ 3,000	△ 4,000	△ 54,000	△ 3,000
資金需給	不 10,700	不 2,000		余 1,000	不 5,000	不 49,000	余 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(40年)			交付税特会借入・償還		法人税・保険揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,900 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 100					共通担保(全店) △ 800	
オバスタート	共通担保(全店) + 2,600		祝日	CP等買入 + 4,000			
(日本)		製造業部門別投入・ 産出物価指数(3月)		金融政策決定会合 展望レポート公表 黒田総裁、記者会見 鉱工業生産指数(3月) 決算動向(3月) 住宅着工統計(3月)	CPI(全国3月、 東京都区部4月) 完全失業率(3月) 有効求人倍率(3月) 家計調査(3月) 毎月勤労統計(3月)	日銀当座預金増減要因 (5月見込み) マネタリーベース(4月) 営業毎旬報告 (4/30現在) 日本銀行が保有する 国債の銘柄別残高 日本銀行によるTDB の銘柄別買入額	金融政策決定会合 議事要旨(4月7・8日分)
(海外)	米 安倍首相 ハーバード大学で講演	米 日米首脳会談 (ワシントン) 米 FOMC(29日まで) 米 S&P/ケース・シラー 住宅価格指数(2月) 米 消費者信頼感指数 (4月) 英 1-3月GDP(速報値)	米 FOMC、結果 米 1-3月GDP 米 MBA住宅ローン 申請件数(24日終了週) 米 安倍首相が 米会議で演説(ワシントン)	米 個人支出・所得(3月) 米 新規失業保険 申請件数 欧 ECB経済報告 欧 ユーロ圏失業率(3月)	米 建設支出(3月) 米 ISM製造業景況 指数(4月)	米 消費者信用残高 (3月) 米 新規失業保険 申請件数	米 雇用統計(4月) 米 卸売在庫(3月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.117 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.130
SPOT 6M	0.135 ~ 0.150

<インターバンク>

当座預金残高は週初、国債の大量償還を主因に前週末比6兆9500億円減の203兆5800億円で始まった。その後は短国・国債買入を主因に残高を戻し、208兆7400億円で越えた。無担保コールON物は23日までは0.06~0.06%台前半のレンジで底堅く推移した。週末となる24日はやや強含み、朝方から0.06%台半ばで取引され、加重平均金利(速報値)は0.065%で越えた。ターム物は、1W物で0.117%の出合が中心であった。21日、政府は衆参両院の議院運営委員会理事会で6月30日に任期満了となる日銀、森本審議委員の後任にトヨタ自動車相談役の布野幸利氏を起用する人事案を提示した。衆参両院で同意されれば、7月14・15日の金融政策決定会合から参加する。

22日、日経平均株価の終値が2万133円90銭となった。終値での2万円台回復は2000年4月14日以来、15年ぶり。来週の材料は、金融政策決定会合・展望レポート(30日)、CPI(5月1日)、海外では日米首脳会談(28日)、FOMC(29日)、米国1-3月GDP(29日)などが挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	△0.020 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約1兆5000億円で、期落ち額約4600億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。期明けの復活発行の他、ゴールデンウィークを控え、月末発行を前倒しで約定する動きが見られ、発行超となった。

今週のa-1格相当銘柄の3M物の入札発行レートは、0.080%台前半~0.110%近辺とほぼ横這いで推移した。

現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約1兆2400億円となっている。

<TDB>

23日に国庫短期証券3M第528回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0040%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0064%(前回債0.0000%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.02%近辺の出合い。6Mは目立った出合いが見られず、1Yは△0.035%近辺の地合いとなっている。来週28日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初0.08~0.085%近辺の出合から始まり、週末まで概ね0.06~0.07%のレンジで推移し、TDB3Mの入札が行われた23日には0.085%近辺までレートが上昇。週末には短国買入オペが市場予想を上回る2兆5000億円オファーされたが、レート低下は限定的で0.065~0.075%での出合をつけ越えた。

SCは10年337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。2年債は350・351回債、5年債は118・122・123回債、10年債は323・325・328・329・336・337・338回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。